

東京六華同窓会

(旧)在京礼中同窓会

(題字制作：南8期 田村功)

7月19日(土)は 東京六華同窓会2025 総会・懇親会へ!

2025年の総会・懇親会は、例年の6月開催から7月開催に変更し、7月19日(土)に東京・新橋の「第一ホテル東京」にて開催します。

札幌の六華同窓会が毎年札幌パークホテルで行われているように、東京でもホームグラウンドを持ちたいという思いから会場を探しました。しかし、例年の6月では会場の確保ができなかったことから、事務局の了解を得た上で、7月まで時期を広げて当たったところ、同期・同窓のご縁により第一ホテル東京で開催できるとなりました。開催当日まで約2カ月となり、ご参加いただく皆さまに「楽しんでいただきたい」という思いのもと、実行委員会メンバーのミーティングにもいっそう熱が入ってきました。ぜひ多くの同窓生の皆さまにご参加いただき、すよう、心よりお願い申し上げます。本年のテーマは、私たち南41期が幹事期だった16年に札幌の六華同窓会でも掲げられた「六華ノオト」。9年ぶりの再登場です。「六華ノオト RIKKANOTES」には、同窓生一人ひとりを「音」にたとえ、それぞれが奏でる音の調和によって美しい旋律が響き合うようにという願い、そして、それぞれの歩み(記録notes)をつなぎ、新たな時代を紡いでいけるようにという願いが込められています。

東京六華同窓会 2025



Web サイトはコチラ

<https://tokyorikka2025.wixsite.com/2025>

東京六華同窓会会報 (通算) 第137号
2025年5月16日発行

〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目2番15号
浜松町ダイヤビル2F

東京六華同窓会 広報委員会

デザイン・制作 /
(株)メディアクリエイションズ

総会・懇親会の醍醐味は、やはり同窓生同士の語らいのひとときではないでしょうか。当日は、会場で美味しい食事を囲みながら、級友や先輩・後輩との再会をゆったりとお楽しみいただけるよう、十分なお時間をご用意しております。さらに、その語らいの時間をよりいっそう思い出深いものとなるよう、ちょっとした趣向を凝らした企画も現在準備中です。ご期待ください。同窓会誌への広告や協賛の募集につきまして、同窓生の皆さまから多大なるご協力を賜り、心より感謝申し上げます。広告募集活動を通じて、皆さまの温かなお気持ちに触れることができ、皆様の個人協賛につきましては引き続き募集しておりますので、さらなるご支援を頂戴できれば幸いです。

最後になります。現在、当日の参加申し込みを受け付け中です。申し込みは、東京六華同窓会のホームページ内の「東京六華同窓会2025参加申し込み」にて承っております(QRコードから入ることが出来ます)。また、先輩からのご提案により、「同期一括申し込み」も承ることとなります。学年幹事など代表の方に同期の出席者をお取りまとめいただいた上で、東京六華同窓会2025実行委員会までメール(tokyorikka2025@gmail.com)にてご連絡ください。折り返し必要事項をご案内いたします。ぜひご利用ください。7月19日は、第一ホテル東京にて、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

東京六華同窓会2025総会・懇親会

実行委員長 若林理 (南41期)

2025年「東京六華同窓会 総会・懇親会」のお知らせ

2025年度の「東京六華同窓会 総会・懇親会」を下記の日程で開催いたします。

総会・懇親会の当番期は南41期・51期・61期です。

コロナ禍以降、イベントスペースでの開催が続いておりましたが、久々のホテル宴会場での開催となりました。その関係で7月開催となっております。同期、同窓の方をお誘いの上、奮ってご参加ください。

東京六華同窓会会長 片山晶彦 (南23期)



《開催日》2025年7月19日(土) 総会 15時~/懇親会 16時~

《会場》第一ホテル東京 5階「ラ・ローズ」 東京都東京新橋1-2-6
JR[新橋駅]北改札より日比谷口(SL広場側)徒歩約2分
東京メトロ銀座線[新橋駅]7番出口方面より内幸町地下歩道にて直結徒歩約2分

《会費》~南20期まで(8,000円) 南21~50期(12,000円)
南51~70期(8,000円) 南71期以降(3,000円)

2025年度の総会・懇親会の開催日は例年より約1カ月遅れとなる7月19日(土)です。久しぶりにホテルの宴会場を確保することができ、同期・同窓の皆さまと楽しく語らう時間をご用意しております。夏休みスタートの3連休で交通、宿泊が混雑する恐れがあります。遠方からのご参加の方は早めの手配をお願いいたします。

実行委員長 若林理 (南41期)



いま一度、 「自由」の意義を問う。 東京六華同窓会 「2025年 新春の集い」 開催

1月18日(土)、毎年恒例の東京六華同窓会「2025年新春の集い」が、お馴染みのアルカディア市ヶ谷(私学会館)5階「大雪」で開催された。会費はよき塩梅の8000円(大学生・2000円)で、参加人数は72名。最年長の同窓である米澤俊雄さん(南6期)が乾杯の音頭を取った。マスク着用が義務付けられた一昨年の56人、着用が任意となった昨年度の63人から参加者が大幅に増え、コロナ禍以前の水準に戻りひと安心といったところだ。

あるにもかかわらず、残された記録写真と映像を振り返ると入口付近で撮影したものが足りなかった。それはなぜか。興が削がれ、酔いが冷め、フロアの中ほどで要らぬ注目を浴びることを避けたいほどの宴会クラッシュヤーが存在したからである。数人ではない。ただの1人である。

無礼講にも限度がある。噂を聞きつけ、今後、懸念のあまりドタキャンする同窓が増えてしまうかもしれない。会費の徴収は大規模な六華同窓会であれば事前精算だが、小規模な新春の集いは当日の現金精算であり、従って参加の取りやめも自由だ。当たり前だが参加「予定」人数の記録は残されず、可視化されない実害として影を落とした。事務局としての毅然たる対応も主語が大きいかもしれないし、参加した六華同窓全員の総意でもないだろう。イキのいい奴が現れたくらいの受け止めも分かる。が、都度、傍らで説得を試みつつ監視していた同窓有志は、今年は寿司のひとつすら食べる暇はなかったのである。ちなみに、輩はクルマで来場しており酔客ではないことを補足しておく。

以下の宴会鬼六則(六原則)は、東京六華同窓会広報委員会のいち取材記者としての独断であることを明記しておく。その壺・野次を飛ばさない。その式・学歴差別・職業差別をしない。その参・人を馬鹿にしない。その四・勝手に壇上に上がらない。その五・勝手に指揮をしない。その六・口説かない。以上。

同窓の安全が最優先である。今回の問題行動に関しては「威力業務妨

害に該当する」との複数の六華同窓弁護士のお墨付きを頂いたので、今後は気持ち共有する屈強な同窓有志と厳格かつ毅然たる態度で臨むことを宣言しておく。

われら札幌南高校の同窓は、校則なんてものの存在を知らぬほどに自由を謳歌していたはずであり、「自由には責任が伴う」などという使い古された言葉も義務教育時代に知っている。宴会での常識的な遵守事項をこの歳になって今さら確認し合うなんぞ虫唾が走るが、いま一度、「自由」の意義を問うてみたい。

広報委員会
北條貴文(南43期)

六華同窓会・宴会鬼六則

- その壺：野次を飛ばさない。
- その式：学歴差別・職業差別をしない。
- その参：人を馬鹿にしない。
- その四：勝手に壇上に上がらない。
- その五：勝手に指揮をしない。
- その六：口説かない。



乾杯の音頭を取った
米澤俊雄さん(南6期)



初の試みとなった
参加者全員の集合写真

「人類の進歩と調和」から 「いのち輝く未来社会のデザイン」へ

個人的大阪・関西万博往訪記



2025年日本国際博覧会（略称・大阪・関西万博）が4月13日、大阪市此花区の人工島「夢洲（★ルビ=ゆめしま）」で開幕した。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、会期は10月13日までの184日間。大阪で1970年以来、2回目の開催となった万博の模様を、2人の東京六華同窓会のメンバーが報告する。初回は南35期の三橋一巨（みつはしかずきよ）さん。次回は南21期の松岡拓公雄（まつおかたけお）さんが55年前に国内で初めて大阪府吹田市で開催された大阪万博を振り返る。

去る4月15日（火）、年度早々に有給休暇を取得し大阪は夢洲で開催中の「2025日本国際博覧会」（通称：大阪・関西万博）へ赴いて参りました。

会場着は9・20頃。予約引換券を当日入場券に引き換える為東ゲート右横側の引換所へ。そこではほぼ待ちなくスムーズに行きました（尤も、ネット（スマホ）予約の方が大部分なのでしょうけど…私はコンビニでの紙ベース発券）が、会場内への入場はコントロールされていて、ゲートの前で約20分待ち。その後空港の保安検査場よろしく人間は金属探知機をくぐり荷物はX線検査を通し漸く会場内部へ。開幕から3日目であった当日の入場者数は約6・2万人と、現時点（5月5日現在）では1日当たり最低の人数でありましたが、何処に行っても人がいましたので感覚的には「それなりの入り」であったように思えました。

会場を入りますと、公式キャラクターである「ミヤクミヤク」の像がお出迎え。そして眼前にはあの木製大屋根リングが。今万博のシンボルの一つであります「大屋根リング」、近くに寄ってみます。

なかなかの壮観であり、内側に入ってみますとこれまた結構な構造美を堪能出来ます。陽射しを遮り、且つ荒天の際には雨風を凌げるとのことでありましたが、どうみても風の抜けが良い為、風雨には確りと当た

ってしまっています。実際に当日は天候の変化があり、雨と風に遭遇し・（嗚呼）。リングの上に登ってみましたすと、東に生駒、西と南に大阪湾、湾越しに六甲と、思った以上に見晴らしが良かったです。そして眼下には万博会場内が。丁度会場を俯瞰することが出来ますので、目的地や観覧候補地を見つけ出すのに役立ちます（勿論、移動にも…因みにリング一周は約2・0キロ）。

そこで一つ感じましたのが今万博の面積的なコンパクトさ。先の万博（Expo'70）の会場では、周回に跨座式モノレールが走っていました。その総延長は約4・2キロ。会場内では電気自動車（タクシー）が走っており、又、「動く歩道」で人々が往來しておりました。今万博での会場内移動は「人力」。ただ流石にエスカレーターやエレベーターが用いられていました。もしかし、これらにも万博が指し示す「進歩」から「未来・その先」の、一つの象徴的な姿が表れているような気も致しました。

各国パビリオンはリングの内側に配置されており、その出展の仕方は大きく3つに分かれていました。
①単独で
②4〜5ヶ国単位の長屋形式で
③一つの建物内に10数ヶ国が夫々ブースを設けて…計5つの建物
①の単独出展では、各国意匠の凝った建物でのお出迎え。②では地域毎に纏まってではなくランダムな配置。③は1ヶ国で複数のブースを使ったり、最小のブースは1辺が4〜5メートル程度のもので。そして、まだ出上来上がっていない・準備中のものも幾つかございました（ex. ブラジル・尚、ブラジル館は私往訪の翌日

（4月16日）に開館）。

そしてリングの外郭に各企業グループやテーマに則ったパビリオンが配置されておりました。各館共「生命」と「未来」、若しくは維持・伸長の基盤としての「健康」が主題です。今回、各パビリオンの事前予約なしで入場したところ、超人気といわれているところ（各国別や各テーマ別）には入れませんでした。それでも当日予約で入れたところや意外にも10分程度並んで入れた人気の館もありました。尚、夫婦共々、最低1つはお目当てパビリオンの中に入り観覧出来ました（家内は2つ）ので、それはそれで良しといったところでしょうか。

17・10頃、会場を後に。流石に1日、それも daytime の内ではこの万博を味わい尽くすまでは至りませんでした。ですが、却ってそれが余韻と再訪願望を惹起させてくれましたので、開会期間中に最低もう一回は行ってみたいなと…



三橋一巨
（南35期）



チエモクの三島千枝さんが「第99回東京国際・ギフト・ショー春2025」でベストサステナビリティ賞に！

意識の高い六華同窓には今さらだが、サステナブル（Sustainable）とは環境・社会・経済などの分野において長期的に持続可能な社会を実現するための取り組みを指す。この概念に着目した審査基準で、札幌市西区小別沢を拠点とする木工クラフト工房であるチエモク株式会社が、2月に東京ビッグサイトで開催された国内最大級の生活雑貨の見本市「第99回東京国際・ギフト・ショー春2025」の関連展示会「第17回 LIFE×DESIGN」にて「ベストサステナビリティ賞」を受賞した。同社社長は、1999年に脱サラして夫婦で木工クラフトに取り組んでいる三島千枝さん（南43期）。

住まいを演出するためのインテリアアイテム、デザインプロダクト、リノベーションアイテムなど、暮らしをより快適に楽しくアップデートするアイテムを提案する「LIFE×DESIGN」出展企業は700以上。その中で、「チエモク（Chiemoku）」新作の木工皿「手然 TESHICA」が厳正な審査を経て受賞に至った。同賞に選出された主な理由は、「使用素材が森林整備によって出る里山の木材」であったこと。「手然 TESHICA」全体のテーマも「手に抱く自然、北海道の里山の豊かさ、多様性を手の中に抱こう」であり、木材のナチュラルな造形を大切に、不ぞろいな木目や色調をありのままに受け入れる一期一会のデザインアプローチがSDGs（Sustainable Development Goals）の観点で際立っていた。

三島さんは1999年に実父に弟子入りして木工をはじめ。2003年に「黒板消しストラップ」、06年に「ふすま名刺入れ」のヒット作を生み出し、08年に下川町で植樹をスタートしたことを契機に「チエモク」を設立した。「ご縁があって、2012年10月に日本橋高島屋で開催された大北海道展に出店したとき、同期の野上佳織さん（南43期）や先輩の長内宏之さん（南37期）が駆けつけてくれて、東京とのつながりが広がりました。それまでは札幌でも六華同窓会に関わりがなく、初めての接点が東京の日本橋でした。お二人にはホントに感謝しています。改めて当時のフェイスブックを読み返してみると、ラーメンに釣られていたようですね（爆笑）」と三島さんは当時を振り返る。

17年の歴史がある「LIFE×DESIGN アワード」には、「チエモク」が受賞したベストサステナビリティ賞のほか、グランプリ、ベストコンセプト賞、ベスト匠の技賞、ベストリノベーション賞、ベストプレス（RoomClip）賞、ベスト工場賞、ベストブースデザイン賞がある。来年はさらなる新作でグランプリを目指してほしい。ちなみに「手然 TESHICA」はオンライン販売もあり。じっくりと“個性”を見極めてから購入したいならば、札幌帰省の折に西区小別沢まで足を運ぼう。

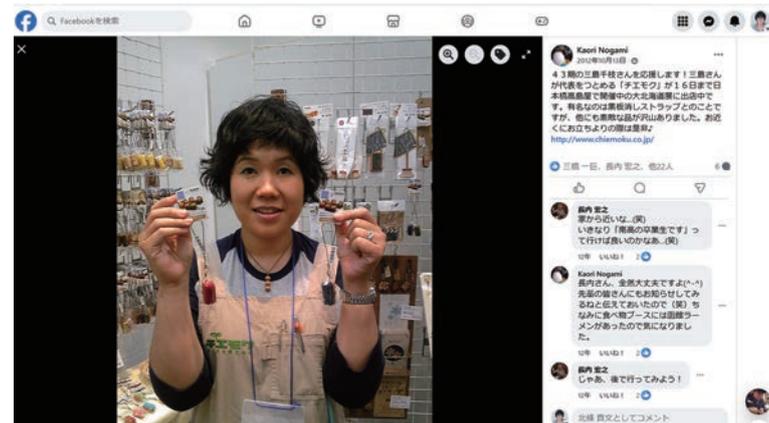
広報編集部 北條貴文（南43期）



2月12日（水）から14日（金）にかけて東京ビッグサイトで開催された「第99回東京国際・ギフト・ショー春2025」の模様



2月14日（金）に発表された「LIFE×DESIGN アワード」授賞式にて。三島さん（右）左は芳賀信享＝ビジネスガイド社社長 / インターナショナル・ギフト・ショー事務局長



2012年10月13日のフェイスブック投稿より



「手然 TESHICA」の価格帯は6,710円（カトラリー）から17,710円（直径26センチの木皿）まで。写真は4つのデザインシリーズのうち、「一滴の雫が作る美しい波紋」に着想を得た「水面（みなも）」

チエモクファクトリーショップ小別沢

住所：札幌市西区小別沢 140
 TEL：011-790-7012
 営業：月・火・金 10:30～15:00
 土・日・祝 10:30～17:00
 TEL：011-790-7012
 （問い合わせ担当：三島）

Chiemoku Online
<https://chiemoku.com/>

古豪！札幌南空手道部 全国大会参戦記

佐々木 雄 (南44期)

札幌南高校空手道部の顧問を務めています佐々木雄です。

このたび、久しぶりに全国大会に出場した生徒たちの活躍について寄稿させていただきますこととなりました。札幌南空手道部の歴史と今の姿を以下にお伝えしたいと思います。

校舎の第2体育館を抜け、部室棟に入るとすぐに左手に階段がある。その階段を上ると、少し色あせた空手の全国大会の記念パネルとトロフィーがずらりと並んでいる。かつて全道屈指の強豪校であった札幌南空手道部の伝統と誇りがここにある。

「札幌百年史」によれば、空手道部の創立は1964年にさかのぼる。すぐに部員数は30名を超え、81年には全国大会に初出場を果たし、男女ともに団体戦で全国大会出場を目指す全道屈指の強豪校であった。その後、指導者がいなくなり競技人口も減ってしまったため、私が赴任した8年前には部員は5、6人だった。しかし当時から、全盛期に札幌南空手道部に所属していた南40期の新井誠治さんが現役の生徒たちの指導に携わっており、当時の札幌南空手部の熱い思いを、今の生徒たちに伝えていただいている。

私は2023年から空手道部の顧問になった。自分自身も多少空手の経験があったので、一緒に空手の練習でもできればという軽い気持ちで引き受けたのだが、現主将で形(かた)個人で各種の技を決まった手順で演舞する競技)のスペシャリストの池田隼、そしてその盟友の下山朔という2人のスーパースターが入部したことにより、再び札幌南空手道部は強豪校への道を歩み出す。

この年の高体連では、くじ運の良さもあり男子団体組手(くみて)2人で相対して自由に技を掛け合う競技)でいきなり全道ベスト4まで進出した。下山の後輩の下田晃大が加入した24年春の高体連全道大会では、ベスト8で全国レベルの選手が何人もいる恵庭南に敗退するも、前主将の山岡直矢が全国の推薦選手相手に互角の死闘を繰り広げ、あと一歩というところまで追い詰めた。どんな相手でも諦めずに勝つ可能性を最後まで追求するその姿勢は、かつての札幌南空手部の魂そのものであったと思う。その先輩たちの悔しい思いを受け継ぎ、池田たちは団体形、3人制団体組手の両方で全国大会出場を目標に今回の選抜大会に望んだ。全道大会ではまず団体形(池田、下山、下田)で準優勝し、全国大会への出場を決める。個人形では、池田が渾身の雲手(ウンスー)松濤館流で最も難しい形)をうち、0・1ポイント差で第4位に入り、見事全国大会への出場を果たした。この勢いで組手での全国大会を目指したが、優勝候補であった団体組手では室蘭東翔高校との激戦の末、僅差で敗退し涙することとなった。しかし、女子も団体形、3人制団体組手で全道に出場することができ、形、組手の双方に取り組む札幌らしさを見せてくれたと思う。



全国大会の形のレベルは非常に高く、北海道のトップの選手でも1回戦を突破するのは難しい。しかし、池田たちは勝てないことは承知しながらも、そこであきらめることなく、大会まで形の練習に励んだ。下山はハンドボール部の主力選手でもあり、その練習の合間を縫って3人で形を合わせた。池田は1人で黙々と観空大(カンクウダイ)松濤館流を代表する形)という形の鍛錬を続けた。3人が心身ともに大きく成長した時期であったと思う。

3月の全国大会では、池田の個人形が最初であった。前日からいくら話しかけても上の空であった池田は、これが最後の全国大会かもしれないという思いで臨んだ。結果は第1ラウンド敗退であったが、池田らしい美しい観空大であった。その後の団体形では、2パイポという糸東流の形で勝負した。第2ラウンド進出を目指していたのだが、思いの外点数は伸びず、こちらも第1ラウンド敗退となった。悔しい結果とはなったが、全国レベルを肌で体感できたことは非常に有意義であり、

この経験を糧にさらに大きく飛躍してくれると信じている。今回の全国大会出場にあたっては、空手道部OB・OGを始め、六華同窓会の皆さまから多大なるご支援、ご声援をいただきました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。今後さまざまな場所でも挑戦を続ける札幌南生を励まし支えていきます。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。



「Session For The Future」

2025年六華同窓会総会・懇親会実行委員長
高橋智美 (南50期)



2025年六華同窓会総会・懇親会実行委員長を仰せつかりました、南50期高橋智美と申します。日ごろ東京で、札幌で、そして各地で六華同窓会の活動にご尽力いただいている皆さま方に深く感謝を申し上げます。現在、私たち南50期は、令和7年10月18日(土)に札幌パークホテルで開催される六華同窓会の総会・懇親会に向けての取り組みを行っているほか、春の学校林散策や、南高校在校生のための六華ゼミ(全8回予定)などの企画も行っています。南50期の実行委員はそれぞれが重要な役割を持っているため、各自大変な面もありますが、お互いを尊重しながら和気あいあいと進めています。今年の六華同窓会(札幌)のテーマは、「Session For The Future」です。これには「過去について話しながら、未来についても語れるような同窓会にしたい」という願いが込められています。ロゴはカラフルな8分音符による六角形で、六華同窓会が奏でるハーモニーを表現しています。六華同窓会の歴史と伝統を大切にしながら、同期のつながりを深めるとともに、世代を超えたつながりの意義を、若い世代の皆さまにも感じてもらえるような同窓会活動にしていきたい、というのが私たちのコンセプトになっています。

若い世代に興味を持ってもらうための工夫として、LINEスタンプを作成したり、従来からの同窓会誌の紙面広告に加えて、ウェブサイトに広告を掲載したり、懇親会中のスライド中でも広告掲載を行う用意もしています。そして「つながりを深めるアイテム」を記念品としてお持ち帰りいただく予定です。

7月に開催される東京六華同窓会総会・懇親会は、久しぶりのホテル開催ということですが、札幌でも宴会場の確保が難しくなっていますが、東京はさらに厳しい状況で、会場費等も感謝上がりしていると聞きます。実現に向けて尽力されている東京六華同窓会の実行委員の皆様のおかげです。この貴重な機会に、そこでしかできない「Session」が「ノオト」に刻まれる一日になると良いなと思っています。

そして、10月18日、札幌パークホテルでも再び皆さまとお会いできますことを楽しみにしております。総会・懇親会の申し込みおよび広告・ご協賛の受け付けは、東京六華同窓会総会・懇親会開催時までは開始する予定ですので、六華同窓会2025のウェブサイトもぜひご覧ください。結びになりますが、六華同窓生の皆さまのますますのご活躍と母校の発展を祈念申し上げ、僭越ながら南50期を代表してのあいさつとさせていただきます。

「ここでしか聞けないサッカー(と、文武両道の最終形態)の話」

第129回「六華サロン」開催

ゲストスピーカー：田部 学さん(南43期)／湘南ベルマーレU-13 コーチ

文武両道と言うは易し。日本プロサッカーリーグ J1 に所属する「湘南ベルマーレ」で U-13 コーチを務めている田部学さんをゲストスピーカーに、第129回「六華サロン」が2月3日、本の森ちゅうおう(京橋図書館)多目的ホールで開かれた。テーマは「ここでしか聞けないサッカーの話」。司会進行は1年生のときに同じクラスだった田部氏同期の北條貴文(本稿執筆)。

思い起こせば、日が暮れてボールが見えない時刻まで練習し続けるクソ真面目な没入。

大雪でグラウンドが使えないときは旧校舎を8の字走行し続ける狂気の熱量。授業中の爆睡。進学校における部活動の流儀のような火種はすべて、高校時代の田部氏から受け取った。マイナーなハンドボール部に所属し傍から見ていた私でさえそう感じたのだから、田部氏のチームメイトはどれほどのエネルギーを共有していたことだろう。

田部氏は札幌南高校サッカー部キャプテンとして、そしてまさかの選手兼監督のような立場で、北海道総体3位という成績で「部活動」を終えている。しかし、スポーツエリートがしのぎを削る体育会推薦枠で大学に進学したわけではない。2浪の末、名門・筑波大学体育専門学群に一般受験での合格を手にした苦労人の彼を同期はみな称賛したが、真摯な挑戦は終わってはいなかった。

筑波大学大学院(体育心理・コーチング)を経て、2001年にJ1リーグ「FC東京」の育成コーチに着任した彼は、もはや「文武両道」さえ超越していたわけである。そして、当たり前のように指導者として頭角を現し、09年に札幌に戻り男女共学となった札幌大谷学園総監督で辣腕を振るう。中学・高校・大学・女子チームの立ち上げ・育成・強化に従事し、高校サッカー部監督として10年間で9回の全国大会出場とプロ選手5名を輩出した。

23年よりJ1リーグ湘南ベルマーレにてU-18のコーチに着任し、2年目より現職。ホームの神奈川県茅ヶ崎市へ移住して、東京六華同窓会との結びつきが強まりうれしい限りだ。四半世紀以上のサッカー指導者としての経験と、これまでの道筋を淡々と述べていく田部氏は、あの頃と同じ朗らかな表情のままに「子どもたちの成長&変化を期待し、何ができるのか?」という問いへの挑戦をこれまで通り地道に続けていきたいと締めくくった。

100%良い意味で、愛されるスポーツバカ。の田部ちゃんに心から敬意を表したい。本人は口が裂けても言わないだろうが、スポーツ観戦好き六華同窓の誰もが「次はJ2に降格したコンサドーレ札幌のコーチとして…」の「野望」を勝手ながら胸に秘めているはずである。



第129回六華サロンの模様。ゲストスピーカーは田部学さん(南43期)



(右) 準備中の田部学さん(南43期)
(左) 実姉であり六華サロン再立ち上げの有志のお一人、田部知江子さん(南39期)



第129回六華サロン記念写真

広報編集部 北條貴文(南43期)

編集後記

広報委員長

今井康人(南28期)

以前この会報は、6月開催の総会・懇親会の内容告知や「学年幹事会」開催告知を行う関係で4月中旬に発行してしまっただけ、今後は5月発行となり、関係で、5月発行となりました。総会懇親会の若林実行委員長のご案内で期待はますます膨らみます。空手部が全国大会に出場する、という部顧問の佐々木雄さん(南44期)によるFacebook「六華応援ひろば」への投稿を見て、佐々木さんに原稿をお願いしました。出場までの歩み、そして全国大会の後輩たちの様子がリアルに感じ取れます。札幌の高橋智美実行委員長(南50期)からも詳細なご案内をいただき、今後札幌と東京との連携が深まる中で、相互情報共有の重要

さを感じています。滑り出しから曰く付きの大阪・関西万博ですが、メディアの報道やSNSだけでは分からないこと、体験しないと分からないことがあるという意味。三橋一巨さん(南35期)のレポートは平たい目で見た実感。「新春の集い」の報告はかなり辛口の仕上がりがりですが、これも同窓の皆さんに今後も安心してお集まりいただきたい、という広報委員の熱い思いが昇華したものと受け止めていただきたいと思います。幸甚。チェモクさんの小さなカッター等を愛用していただきましたし、懇親会のお土産でいただいた小さなカッター等は必需品。また新しいアイ

「六華サロン」とは?

かつて東京・九段下(千代田区)にあった東京六華同窓会事務所を会場に、カジュアルな意見交流と学びの場として2008年10月24日にスタート。20年2月20日の第126回を最後に開催がストップしていたが、南39期有志の声掛けにより24年2月29日から復活開催中。次回の記念すべき第130回六華サロンのゲストスピーカーは未定。自薦・他薦は問いません。事務局までご連絡ください。